報 告

医学生・医師による
医療を考える合同懇談会

常任理事　藤井　美穂

平成19年度日本医師会・男女共同参画委員会の事業の一環として、女子医学生・女性医師を支援する目的で懇談会を全国的に展開することになった。女性医師の増加を背景として、今後女性医師が就労を継続していくための条件と実現に向けての具体的な対策をどう行なっていくか、女性医師の就労に対する男性医師や医療現場の理解と協力のすすめ方、女性医師自身の役割認識をどう持ち続けていくかなどを、医学生を含めた若い医師とともに話し合うことが必要であるとの考えで企画されたものである。懇談会開催には日本医師会の資金援助が組まれ、平成19年度に予算が計上されている。平成18年度はこのモデル事業として、全国10カ所で予定、北海道においては北海道医師会、札幌市医師会、旭川市医師会の共催、北海道大学医師会、札幌医科大学医師会、旭川医科大学医師会の後援を得、「医学生・医師による医療を考える合同懇談会～女性医師がキャリアを継続していくためには～」と題し12月8日（金）午後6時から札幌グランドホテルで開催された。

飯塚会長のopening remarksの後、道医師会加藤副会長を含めた4名のパネリストの講演、フロアからの質疑応答と進行した。学生からは「いい臨床医になるための教育とは何か」「臨床研修制度の今後は」など教育を受ける側からの質問、意見などが出された。懇談会終了後、同会場で自然発生的にできた座談会が始まり終了は22時をまわる盛会裡に閉会した。

パネルデスカッション

加藤　紘之　（斗南病院院長）
「地域医療をどう守るか－連携と役割分担の視点から－」

天野　恵子　（千葉県立衛生研究所所長/千葉県立病院副院長）
「性差医療の切り口から女性医師の勤務を考える」

斉藤　康子　（婦人科・心療内科医師）
「女子医大生と現役女性医師の意識差」

矢嶋　彰子　（外科医師）
「キャリア継続の実例－女性外科医師として」

事後アンケートを行い、参加者33名中24名からの回答が得られた。

【学生・研修医等へのアンケート結果】

1. 性　別　　女性　20名　　男性　4名
2. 身　分
   学　生　　1学年　2名　　2学年　0名
   　　3学年　4名　　4学年　8名
   　　5学年　3名　　6学年　4名
   医　師　　3名
3. この会をどのように知ったか？
   ポスター　9名　　友人・知人　4名
   メーリングリスト　5名
   その他（チラシ　1名　　授業　5名）
4. どのテーマに興味を持ったか？
   全てのテーマに回答あり。
5. 今後ともこのような会に参加するか？
   する　　23名　　しない　　0名
   記入なし　1名
6. 今回知りたかった内容は取り上げられたか？
   はい　　22名　　いいえ　　1名
   記入なし　1名

○知りたかった具体的な内容
- 女性医師の多種多彩な生き方
- 産前産後、具体的にどう仕事をしていったのかの実例
- 妊娠期の仕事、育児中の勤務実態
- 結婚、出産と仕事をどう両立するのか
- 女性医師の働き方の実際

○感想・要望
- 今までの講義にない切り口での講演で楽しめた。
- 思った以上にためになり意識が変わった。
- 是非定期的に開催してほしい。
- たいへん感動した。もっと多くの学生に聞いてもらいたい。
- 非常に興味深かった。